

2020年1月の予定



2019年12月19日

野毛山幼稚園

主 題	取り組む
ね が い	<p>イエスさまのなさったわざやたとえ話を聞く中で、イエスさまを身近に感じる。</p> <p>好きな遊びを心ゆくまで楽しみ、ものごとや深く関わるのが面白くなりそれが喜びとなる。</p> <p>健康な生活をするために、必要なことを自分からする。</p> <p>伝承遊びを楽しみ、ことばや数を遊びの中で使うのが面白くなる。</p>

聖句 わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。

フィリピの信徒への手紙4章13節

今月の聖書の言葉はパウロの言葉です。今年度は何回かパウロの言葉が出てきましたのでパウロについては少しふれたことがありました。フィリピの信徒への手紙は、獄中で書かれたものでありながら、不平不満や自分の愚痴、憎しみや怒りを述べていません。「喜びの書簡」と言われているものです。この手紙を結ぶにあたり、パウロは「主にある喜び」について具体的に繰り返して語っています。パウロがこの手紙を書いたのはフィリピの教会の人たちから献金を受け取ったことにあります。人々の善意を素直に感謝し、喜びをあらわしました。けれども、「苦しみ困っているときに助けてもらった」とか「必要なものが満たされた」ということだけを喜んでいるのではなく、貧しい中にも豊かさの中にも、また、満腹していても空腹であっても、どんな時、どんな状況の場合にも対処する秘訣を授かっている…ということです。神さまと一緒に…わたしを強くしてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。とパウロは言っているのです。パウロは一日一日を自分を強くしてくださる主イエスさまに支えられて獄中で過ごしていました。だから、喜ぶことができたのだと思います。喜びの根源が「自分」でなく、神さまにあったからこそ、どんな時にも喜ぶことができたのです。この世の想いで見ると、嫌なこと、マイナスなことがたくさんあります。神さまがわかっているでもイエスさまを信じていても苦しくて泣くことがあります。けれどもわたしたちが泣いている時もイエスさまは傍らにいてくださいます。わたしたちも言いたい。「わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です」と。

予 定

日	曜	予 定	備考
7	火	第3学期始業式	
10	金	おもちつき	12時降園
13	月	成人の日	休園
15	水	誕生会	
23	木	おとなと子どもの読み聞かせの会	詳細後日
		個人懇談 (14日16日17日20日21日の5日間)	14時降園
28	火	年長さくら組 横浜美術館子どものアトリエ	詳細後日 現地集合 現地解散

今年の成人式では第55回生くるみ組が成人の仲間入りです。
ランチ始まりは9日(木) 10日はおもちつきのためランチはありません。

こひつじ 8日(水)から

歯みがき指導

21	火	年少アネモネ組
28	火	年中たんぼぼ組



年 長(さくら組)	年 中(たんぼぼ組)	年 少(アネモネ組)
冬休み中の経験をわかるように話す。	思いきり身体を動かして遊ぶ。	思いきり身体を動かして遊ぶ。
自分の考えを相手にわかるように伝える。	みんなで一緒に活動することの楽しさを知る。	追いかけたり、追いかけられたりすることを楽しむ。
寒くても戸外に出て身体を動かして遊ぶ。	お正月のあそびを楽しむ。	乗り物遊びなどを通して、順番や簡単なルールを知る。
お正月のあそびを楽しむ。	新しくなったカレンダーに興味を持つ。	自分の思ったことや感じたことをことばや態度で伝える。
おもちのできるまでの様子を見る。	友だちとのつながりを深める。	お正月のあそびを楽しむ。
おもちつきの経験をする。	おもちつきの経験をする。	冬の衛生に気をつける。
冬の自然に興味、関心を持つ。	冬の自然に関心を持つ。	冬の自然にふれる。
さまざまなことに目を向け、気づく心を持つ。	冬の衛生に気をつける。	曲にあわせて歌ったり、踊ったりする。
わたしたちはいのちをいただいて生かされていることを感じ、感謝の気持ちを持つ。	たくさんの本や紙芝居に親しむ。	たくさん絵本や紙芝居に親しむ。
わからないことや不思議に思ったことを調べる。	楽しく工作遊びをする。	おもちつきを経験する。
楽しく歌ったり、ことばの意味を考えながら表現したりする。		楽しく工作遊びをする。
新しいカレンダーに関心を持ち、一日一日を大切に過ごす。		
自分たちで話し合い、のげやまミュージアムの準備をしていく。		

